

泌尿器科

様

入院から退院までの流れ (No.1)

病名： 前立腺癌

術式：開腹前立腺全摘術

この予定表は一般的・標準的な治療の経過を一覧表にしたものです。患者様の状態により多少変わることがあります。

年 月 日

項目 \ 時間枠	月 日 (手術前日)	手術日 月 日	
		手術前	手術後
患者目標	手術に向けて、体の準備、心の準備ができる。 手術後に必要な物品の準備ができる (T 字帯 2～3 枚、バスタオル 1 枚、尿取りパット 10 枚、薬のみ又はストロー) 手術後の経過が理解でき、不明点があれば医療者に質問し、解決できる。 家族は、手術当日の来院時間、場所がわかる。	手術に向けて、体の準備、心の準備ができる。 食べたり飲んだりしないことが守れる。	手術後に必要な処置を受け入れることができる。 管の違和感、痛み、吐き気や頭痛などの症状出現した時、医療者に伝えることができる。 手術後の禁止事項 (指示があるまで歩行できないこと、尿の管は医師の指示があるまで抜去できないこと) などが守れる。 安静解除後に自力歩行ができる。むせずに飲水できる。
治療 処置	夕食後か寝る前に、下剤を飲みます。	手術室は 3 階です。 手術は、 番目です。一番目の方は、8 時頃に手術室へ行きます。 二番目以降の方は、連絡が来てから手術室へ行きます。 朝、浣腸を行います。	医師の指示で、酸素マスクをつける事があります。 痛みがあるときは痛み止めを使いますので、お知らせください。
検 査		特に予定をしている検査はありません。検査があれば、随時お知らせします。	
患者様 及び ご家族への説明	主治医、病棟看護師が入院後の予定や手術の追加説明について説明します。 退院後の生活の中での注意点をご説明します。 手術を担当する麻酔科医、手術室看護師が、手術中の事について病室で説明します。	ご家族は、手術開始 30 分前には、直接病棟へおこしく下さい。 手術中ご家族は、7 階のデイルームまたはお部屋でお待ちいただきます。 手術終了までは、どなたか必ず 7 階のデイルームまたはお部屋に待機していただくよう、お願い致します。	ご不明な点がありましたら、遠慮なくお尋ねください。
検 温	入院時に検温 (熱、脈拍、血圧測定) をします。	朝、浣腸前に検温をします。	手術後は適宜、検温をします。
安静度 (活動)	特に制限はありません。		手術後医師の指示があるまで、ベッド上で安静に過ごします。 用件時は、ナースコールを押してください。
排 泄	特に制限はありません。 便秘症の方はお知らせください。	朝、浣腸をします。	尿の管は入れたままです。 血尿がある場合は医師の指示で尿の管から洗浄します。 便意がある時は、看護師にお知らせください。
食 事	食事はお部屋にご用意します。 夕食以降の飲食は、医師の指示に従いましょう。	朝から食べたり、飲んだりはできません。	手術後、食べたり、飲んだりできません。飲水を開始する時はお知らせします。
清 潔	入浴またはシャワーに入り、髪を洗いましょう。 爪が伸びている場合は、切りましょう。	手術前に制限はありません。(洗顔や歯磨き可)	入浴・洗髪はできません。 歯磨きはできます。(看護師がベッドにご用意します)
薬 剤	入院の際、内容確認のため普段飲んでいるお薬 (医師から処方された薬) を、一度預かります。 続けて飲む場合は、説明します。	手術前の薬は、医師の指示に従いましょう。 手術前に腕から点滴をします。 (朝一番の手術の場合、手術室で点滴します。)	点滴は続きます。
手続き その他	診断書などの書類の申請がある場合は、外来支払い窓口で書類と一緒に提出ください。 (書類にはお名前、生年月日を事前にお書きください)	時計、コンタクト、指輪、入れ歯などつけているものをすべて取り外して手術衣に着替えます。 肺塞栓予防のストッキングをはきます。 (手術衣、肺塞栓予防のストッキングは病院で用意します)	手術当日は、肺塞栓予防のストッキングは着用したままです。

この予定表は一般的・標準的な治療の経過を一覧表にしたものです。患者様の状態により多少変わることがあります。

年 月 日

時間枠 項目	手術後 1 ～3 日目	手術後 4 日目～退院まで	退院後から再診日までの注意事項
患者 目標	手術後必要な処置を受け入れることができる。 創痛、頭痛などの症状が出現した時、医療者に伝えることができる。 水分を 1 日 1000ml 程度摂取できる。 退院後の日常生活注意事項、外来受診の必要性が理解できる。	創痛などの自覚症状が出現した時、医療者に伝えることができる。 尿漏れがある場合、骨盤底筋運動を生活に組み入れることができる。 退院後の日常生活注意事項、外来受診の必要性が理解できる。	
治療 処置	診察を行います。 痛みがあるときは痛み止めを使います。	術後 1 週間目頃診察を行い、造影検査をしてから尿の管を抜去します。 抜去後は排尿記録をつけます。 傷の消毒を行います。手術後 7 日目に傷を半分抜糸します。 傷に問題がなければ、8 日目で全抜糸します。	前立腺全摘除術の手術後は、以下の点に注意してお過ごしてください。 1. 感染を防ぐため、水分は 1 日 1500ml を目安に飲みましょう。ただし、夕食後の水分摂取は夜の排尿回数が増え、睡眠が妨げられるため控えましょう。 2. 排尿時の痛み、尿が残っている感じ、尿が出にくい、尿漏れがひどくなった場合はすぐに受診してください 尿漏れは個人差はありますが、3～6 ヶ月くらいまでには日常生活に支障のない状態まで回復します。根気良く骨盤底筋体操を続けましょう。 尿とりパッドは、長時間汚れたままにしておくと感染をまねく恐れがあります。こまめに取り替えましょう。 3. お腹に力の要るような以下の行動は、次回受診日に医師に確認するまではさけましょう。 1)重い荷物の持ち運び 2)激しい運動 3)自転車に乗る 4)頻繁な階段の昇降 5)排便時に力む（便秘にならないように食生活に注意しましょう） 4. 性機能について気になることは、主治医へお尋ねください 5. 退院後は経過観察が必要です。定期的に外来を受診しましょう 再診日は必ず受診してください。帰宅後、初回再診日の変更を希望される場合は、総合予約室まで連絡ください。 退院後初回再診日まで、ご不明、ご不安なことがありましたら、下記連絡先に、お電話をください。 宮崎大学医学部附属病院 泌尿器科外来 0985-85-9317 泌尿器科病棟 0985-85-1898 総合予約室 0985-85-1225 ※時間外（17：00～翌朝 9：00）は病棟に電話をおかけください
検 査	予定をしている検査はありません。	予定をしている検査はありません。	
患者様 及び ご家族への説明	診察時に経過についてお話しします。 （主治医）	退院後の注意事項について説明します。 （主治医・病棟看護師）	
検 温	適宜検温をします。	午前中に検温をします。	
安静度 (活動)	手術後最初に歩く時は、看護師と一緒に歩きます。 その後ふらつき、気分不快などなければ、お一人で歩けます。 尿の管が入っているときは、歩く時に引っ張らないように気をつけましょう。 	制限はありません。 尿の管が入っているときは、歩く時に引っ張らないように気をつけましょう。 運動は医師の許可が出てから行って下さい。	
排 泄	尿の管が入っています。	尿の管が抜けた後に 4 時間しても尿が出なかったり、出にくい時、血尿が濃くなる場合はお知らせください。 場合によっては尿漏れの可能性があるので、尿取りパットをあててもらうことがあります。尿漏れ防止として、骨盤底筋運動を説明します。	
食 事	食事をお部屋にご用意します。	食事をお部屋にご用意します。	
清 潔	体を蒸しタオルで拭きます。（タオルは看護師がお持ちします） 医師の許可が出れば、尿の管が入ったままでもシャワーに入れます。 ただしお湯にはつかれません。 歯磨き、洗髪、髭そりはできます。	シャワーに入れます。 	
薬 剤	医師の指示で薬を再開します。続けて中止する場合はお知らせします。 食事が摂取でき、発熱がなければ点滴を抜きます。	医師の指示に従い内服します。	
手続き その他	肺塞栓予防のストッキングを脱ぐ際は看護師からお知らせします。	入院費は退院日に精算となります。前もって金額が知りたい方は看護師または事務員にお知らせ下さい。	